

古文書が語る世界

井伊家の文書コレクションは、多くの点で日本の歴史の研究に大きな価値のある貢献をしている。博物館コレクションには数万件の文書が含まれており、その一部は安土桃山時代（1568～1603 年）にまで遡り、徳川家康から井伊家が彦根を統治する、名誉ある地位に任命された記録を残している。他の文書は、17 世紀の城下町の構造と彦根の社会に関する重要な情報を明らかにしている。

井伊家の古い記録のアーカイブ

博物館のコレクションに収められているおよそ 27,800 もの文書は、日本史の研究にとって価値あるものと認められ、重要文化財に指定されている。このコレクションには、個々の井伊家の藩主と将軍の個人的な関係を示す資料や、井伊家が徳川政権内でどのように関わってきたかに関する記録も含まれている。19 世紀後半にいろいろな大名達から送られてきた文書は、徳川幕府が倒される前の最後の数十年間の徳川政権についての非常に貴重な情報を提供している。

これらの文書の中には、井伊家の家臣の商習慣と城下町の武士の生活を記録した資料もある。また、城跡や城下町の詳細地図（彦根市文化財）もある。日本の偉大な統一者の一人である豊臣秀吉からの手紙や、将軍や各地の大名たちの手紙もある。また、江戸城で行われた式典の記録や条約の原案、および大名の財産と生活を反映した購買と手数料に関する文書も残っている。